

第36回宮前地区青少年作品展『絵画の部』講評

この作品展は、宮前地区の子供たちが自宅や地域の子ども会などで描いた絵が集まる、今年で36回目となる作品展と伺っています。絵を自ら描きたいと思い、表された作品には、「思い」がたくさん表現されており、「思い」の溢れている素晴らしい作品の数々が見られました。

表現するために技能的な面も当然大切ではありますが、絵画、イラスト、デザイン、ちぎり絵等の様々な作品を通して、この子はどんなことに心が動いてこの作品を表現したのかと、想像しながら審査をしました。

自分の好きなことを表現した作品、独創的な発想で想像した世界を表現した作品、生活の中で頑張ったことやうれしかったことを表現した作品、家族や仲間、世界のみんなの幸せを願って表現された作品等に出会うことができました。

新型コロナウイルス感染症の拡大を防止しながらの生活様式では、できないこともまだまだ多く、子供たちを取り巻く環境も大きく変化しています。そのような社会情勢の中、心温まる子供らしい瑞々しい感性を感じられる作品の数々は、見る者の心を感動させ、その素晴らしさを改めて感じる事ができる作品展となりました。

来年もまた、このように子供たちの心が動いた「思い」がいっぱいあった作品が、たくさんつくられることを願っています。

審査員 川崎市立宮崎小学校教頭 藤原 由布子